

第7回群馬県少子化対策推進県民会議の概要

1 日 時 平成25年9月3日(火) 午後2時～4時

2 会 場 県庁 第1特別会議室

3 出席者 県民会議委員13名

4 会議内容

- (1) ぐんま子育て・若者サポートヴィジョン2010の取組状況について
- (2) 少子化対策の現状について

5 主な発言内容

(1) 「ぐんま子育て・若者サポートヴィジョン2010」の取組状況について

- ・「育児いきいき参加企業認定」の認定企業数が、計画策定時からほぼ倍増しており素晴らしいと思う。
- ・最近離婚する人も多いので、「ぐんま赤い糸プロジェクト」の対象者をそういう方にも間口を広げていくと少し効果が上がるのではないかと思う。
- ・若者の自立支援「再チャレンジ支援」について、正規雇用につながった割合はどれくらいあるのか。
- ・母子家庭も含めて、生活することだけで精一杯な家庭が増えており、しつけを含めた学力向上がどの程度されているのかと疑問に感じている。

(2) 少子化対策の現状について

- ・最近、「ブラック企業」といわれるが、その逆で、少子化対策や子育て支援をしっかりやっている企業を「ホワイト企業」として県が積極的にPRしてくのはどうか。いい意味での企業間競争を促し、このままでは人が集まらないという危機感を経営者に持ってもらうことが必要である。
- ・子どもが病気の時に安心して休暇が取れる仕組みを考えてほしい。企業経営者や職場の方に、休暇が取れるような啓発をお願いしたい。
- ・今いる子を元気に育てる、虐待だけは絶対に防いでほしい。最近、双子や三つ子が増えており、多子家庭への経済的支援が必要ではないか。
- ・少子化対策の一環として結婚支援事業を行っているが、結婚しないつもりではない

が、何となく時期を逃してしまったという人が多い。職場や地域でもっと男女の出会いがあったらもう少し早く結婚できるのではないか。

- ・未婚化の進行について、携帯やネット時代になって、人とのコミュニケーションが不得手になっていること、人と人との関係が希薄になっているという気がする。
- ・子どもを産み育てる幸せ感のようなものが薄れているように感じる。
- ・昭和50年代以降、「家を継ぎ、子孫を残す」という意識が希薄になっているように感じる。子ども頃から、地域の伝統行事や家庭内行事を行うことが重要である。地域の文化や伝統行事を紹介するような取組を行ってはどうか。

6 その他

事務局（少子化対策・青少年課）以外に、庁内関係課長（保健予防課・子育て支援課・労働政策課）が出席。